

「馬場小室山遺跡フォーラム」第76回ワークショップ

【 原動力！パブリック・アーケオロジー2016 】

馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジーからみえてきた現代社会との「かわい」と未来への新たな挑戦

馬場小室山遺跡研究の新展開では限界(知識・経験・思考・領域等)からの知的解放を目指します！

＜馬場小室山遺跡研究の新展開—縄文塚(「環提土塚」集落)の遠隔生業往還と広域流通社会からの大転換とは？—＞

新展開1	「ムロさま」の 「限界領域」打破	馬場小室山遺跡「第51号土壇」から展望する縄文時代晩期以降の葬式と土器社会論—「ムロさま」の「累積型改新土坑墓」から探る「追葬型再葬壺棺墓」への途— (ムロ1)寺野東遺跡の「積葬墓」(「SX036埋設土器遺構」)に注目 (ムロ2)青森県の「再葬壺棺墓」／列島晩期の再葬動向／「金田一型土器棺墓」／土井ヶ浜遺跡の「弥生再葬墓」 (ムロ3)福島県島内遺跡の晩期終末の再葬壺棺墓と弥生時代前期の合口土器棺による「積葬墓」の土器社会論
新展開2	「オムちゃん」の 「限界知識」打破	中空土偶から容器形土偶という土偶の「台式」化への社会的意義 (オム1)泉坂下人面イデオロギーの拡散ネットワーク (オム2予告)晩期の人面文土器を契機・原型とした「台式」化
新展開3	「シオ(塩)もん」の 「限界経験」打破	「製塩土器」形成から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会 (シオ1)定住制社会から生業往還としての製塩遺跡へアプローチ (シオ2)アママやヨシ(アシ)の「草木灰」は濃縮工程での使用か？ (シオ3)製塩遺跡の操業タイプ(短期型と長期型)と燃料問題
新展開4	「タマきみ(君)」の 「限界思考」打破	ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「再葬壺棺墓」への流通実態(上越周辺北信経由)解明 (タマ1)熊谷市飯塚南遺跡の土壇出土ヒスイ製勾玉と飯塚遺跡群

1.【第4回「山田湾まるごとスクール」の年末活動】：お世話になった被災地の方々への「お米サンタ活動」

- ・毎年恒例になりました「お米サンタ活動」のために「お米サンタ基金」の準備を開始します。NPO 法人野外調査研究所の解散に伴い、助成金3万円と理事会寄付1万円の補完が新たに発生します。
- ・今回のツアーでは川端弘行会長の奥様から各位に2,000円相当の地場産土産を頂戴しました関係上、ツアー解散時に各位2,000円づつの寄付を集めました。14人参加計28,000円の原資となりました。
- ・現在作成中の記録集も「お米サンタ活動」の3・11被災地カンパにも役立てたく、ご協力をお願いします。

2.【馬場小室山遺跡deインストール】：街づくりにおける遺跡の活用を環境と芸術の両面からアプローチ！

- ・「桜エコ・フェスタ 2016」に参加し、環境を課題とする市民活動の動向や市民の環境に対する関心を理解し、馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジーと共鳴するテーマを見出すならば、アイダ設計によりゴミ扱いされ馬場小室山遺跡から廃棄や投棄された大量の遺物を素材の主演とし、「捨てられるとゴミ、護り伝えるのが街づくり！」というアプローチが可能です。勿論、護り伝えるためには何か表現が必要になります。
- ・馬場小室山遺跡の地下には埋蔵文化財がありますので、対比する形で地上には壊されたゴミを活用する姿をインストールしたいと思います。現代ゴミも活用のために分別収集しますので、分別収集を遺物に相対化し、「分類という表現」を実践するインストールとしましょう。「初めての分類」から始め、「明治時代の分類」、「ガイドブックで分類」、「実物標本で分類」など「分類とは芸術なり！」という参加型インストールです。

3.【「ムロさま」研究からの問いかけ(4)】：方形周溝墓以前の注文の多い「ハカバ」の変遷

★「泉坂下人面イデオロギーの拡散ネットワーク」を(ムロ2)から(オム1)へ移動。前々回が(ムロ2)、前回は(ムロ3)に変更。

1-1. 杉原荘介「再葬墓」から斎藤忠「納骨容器土坑墓」へ：東国の弥生時代形成期から列島の先史観へ

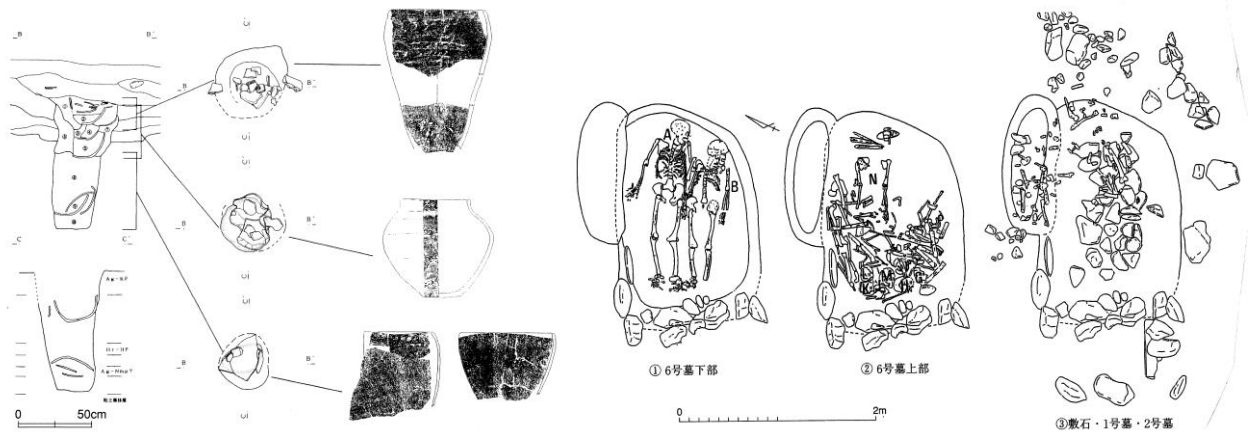
- ・土井ヶ浜遺跡の「再葬土坑墓」(特に頭蓋骨の扱い)は東海地方の「再葬土坑墓」(盤状集積など)からの系譜とは考えられませんが、斎藤忠指摘の大陸伝来の風習に目を向ける必要があります。

■石川日出志(2010)『農耕社会の成立』の「主要事項索引」に「再葬墓」はない。「再葬」のみを採り上げ、杉原荘介「再葬墓」は完全に消えました。設楽博己(2008)『弥生再葬墓と社会』は「弥生再葬墓」と名前を変えますが、土井ヶ浜遺跡の「再葬土坑墓」を対象としません。縄文時代の風習から単に年代的に切り離すために「大型壺の出現」を重視しますが、不思議にも内容は以前のままで変わりません。

◎現状で山内清男の立場を引き継ぐ優れた葬式研究は、斎藤忠『概論』以外に見当たりません。『概論』を追認しましょう。愛媛県上黒岩洞穴の縄文時代早期再葬例など九州島を除く西日本と東海地方の葬式例や再葬土器棺における逆位例なども含め、斎藤忠『概論』の趣旨の今日を補足資料とします。

1-2. 「積葬墓」の振り返り： 小金井良精の「重葬」から土器棺墓や再葬土坑墓などによる「重葬」現象の「積葬墓」へ

- ・寺野東遺跡「SX036埋設土器遺構」(下図左)は「積葬墓」として土器棺墓が垂直的に3回重ねられる例、長野県保地遺跡(下図右)は土坑墓→再葬土坑墓→配石遺構など多様な「積葬墓」が想定。

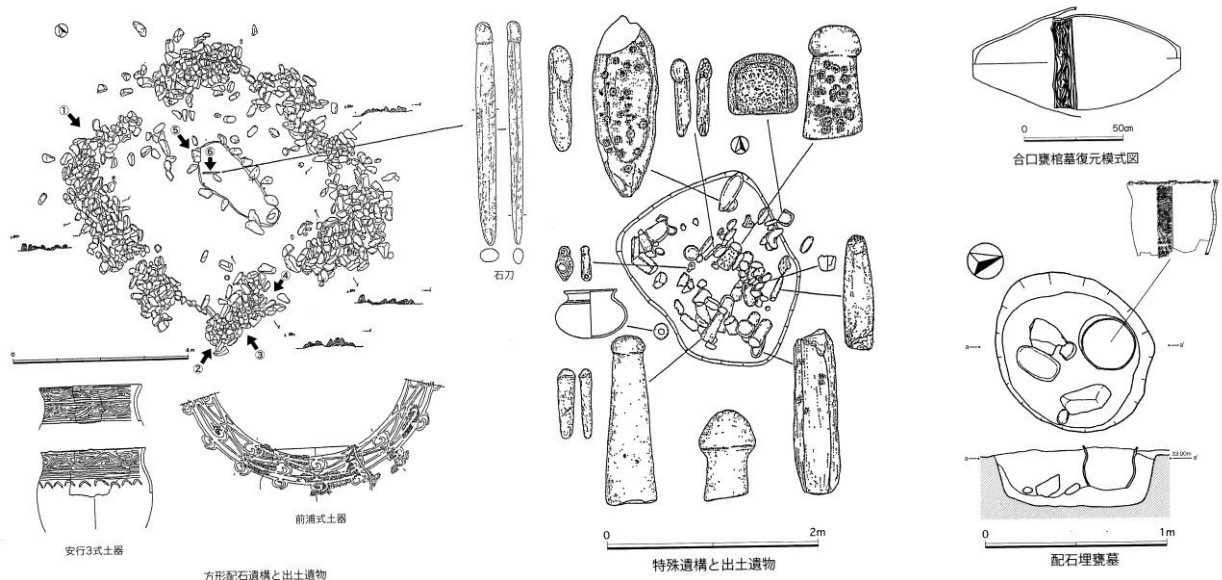


1-3. 弥生時代前期から中期前葉の再葬土器棺墓に観る北方文化と条痕文文化： 動的な交替劇に感激！

- ・福島県石川町鳥内遺跡 IVE 区の集房構成(第 17・18・19 号土坑)の再葬土器棺墓に着目しますと、配置関係(含む切り合い想定線)と「土器型式」の検討から、**第 18 号→第 17 号→第 19 号**と遷移します。
- ・前回紹介しました「積葬墓」例の同区**第 21 号土坑**は、下層が第 18 号より古式の「大洞 A' 式」、上層が**第 17 号と略並行の前期後葉「御代田式」**ですので、縄文時代終末の再葬土器棺墓の次には**第 18 号の北奥「遠賀川系土器」**が南下、合口壺棺ではなく、在地の第 21 号土坑下層の風習を採用します。
- ・同様に**第 19 号は中期前葉「岩櫃山 1 式」**で共通する再葬土器棺墓に従います。**中期前葉に至り漸く東海・中部地方の条痕文文化が北上する姿に交替します。**弥生時代の開始は北部九州周辺から瀬戸内・近畿を経て東海・中部地方へ順次米作が東漸・北上する姿と理解されていますが、鳥内遺跡の葬墓式における状況からはその兆候が全く窺えないどころか、逆に弥生時代形成期は**北方文化である北奥「遠賀川系土器」の南下が顕著**で、あたかも貫入するかの如く出現していることに注目しましょう。

1-4. 調布市下布田遺跡における晩期中葉の葬墓式：「方形配石遺構」や横位合口土器棺墓に注目！

- ・大型の配石遺構を墓式とする風習は甲信地方との関係が窺えます。配布資料で具体的に確認します。
- ・下布田遺跡は「安行 3d 式」末葉の**横位合口土器棺**で著名です。横位の合口埋設法は東海地方に風習化した作法であり、土器棺自体には「安行 3d 式」を用いながら、執行する集団には東海地方との交流が強く窺えます。更に下布田遺跡では「西之山式」期の方形波状口縁浅鉢も検出されています。



4. 【「シオ(塩)もん」研究からの問いかけ(4)】： 下布田遺跡の「安行 3c 式」期「製塩土器」の形態に注目！

- ・下布田遺跡では「安行 3c 式」が主体となる地区から「製塩土器」が検出されています。口縁部調整は大宮台地の該期「製塩土器」と共通しており、口縁部への顕著な水平・内傾・外傾ヘラカットは殆ど見られず、霞ヶ浦方面の「安行 3a 式」期と類似している形態が印象的です。体部の削りもササラ状工具が目立ちます。
- ・夏の浜辺は**天日と熱砂**が盛り。**採鹹工程の効率化は熱砂を「製塩土器」の周りに置くことで実現できるか。**

5. 【その他】： 情報交換会(ワイン・アーケオロジー)での話題など

- ・真福寺貝塚の現地説明会(11/5)に参加しました。これまでの調査を総合すると窪地周囲の高まりに沿って晩期前葉までの遺構内ヤマトシジミ貝塚を配する構成であり、窪地を下がると「安行 3c 式」の泥炭層とは別に「安行 3d 式」から「南奥大洞 C2 式 V 期」の人類活動が見られる集落遺跡であり、土塚は未明。 **以上**